

## 今求められる

# 子どもものの貧困対策

2016年12月、愛知県の「子どもの貧困対策検討会議」は、県内小学1年の保護者、小学5年児童とその保護者、中学2年生徒とその保護者に対して「愛知子ども調査」を行いました。そして、調査結果を分析した上で、2017年9月に「子どもが輝く未来に向けた提言」を知事に提出しました。「提言」は、「県内のすべての子どもが夢と希望を持って成長できるよう・・・子どもの貧困対策として必要な取組」を提示しています。

ここでは、調査結果と「提言」をもとに、学校教育に関連する部分についての貧困対策を考えてみたいと思います。まずは、保護者の状況から検討します。

## 暮らし向きは 苦しい

調査結果では、愛知県の子どもの貧困率は5.9%であることが明らかになりました。ただし、この数値よりはるかに広い範囲の保護者が、暮らし向きが苦しいと回答しています。しかも、小1↓小5↓中2と子どもの学年が上がるにつれて、苦しいという割合が高くなっています。

現在の暮らし向きが苦しい

(大変苦しいやや苦しい)

小1…20.5%  
小5…30.2%  
中2…34.2%

苦しさの中味については、衣料や食料が買えなかったりしたことがあるなど深刻な状況となっています。これについても、ほとんどの項目について、学年が上がるにつれて割合が高くなっています。(いずれも保護者の回答割合)

### 食料が買えなかった経験

小1/ 8.9%、小5/10.0%、中2/10.4%

### 衣料が買えなかった経験

小1/16.2%、小5/16.9%、中2/18.4%

### 電気料金未払い経験あり

小1/ 4.5%、小5/ 5.4%、中2/ 6.2%

### ガス料金の未払い経験あり

小1/ 4.2%、小5/ 5.2%、中2/ 5.2%

### 水道料金の未払い経験あり

小1/ 4.2%、小5/ 5.4%、中2/5.3%

## 経済的に困った

「子どもが生まれてから困ったこと」について、「経済的に困った」「子育ての相談相手がいなかった」「子どもを預けるところが無かった」のそれぞれについて該当するかどうか尋ねる質問がありました。

これに対して、いずれの学年の保護者も、「経済的に困った」と回答している割合が一番高くなっています。

子どもが生まれてから

困ったこと(小学校入学後)

経済的に困った

小1…11.5%

小5…13.0%

中2…12.8%

子育ての相談相手がなかった

小1… 3.5%

小5… 4.0%

中2… 4.7%

子どもを預けるところが無かった

小1… 8.5%

小5… 8.5%

中2… 8.5%

(いずれも保護者の回答割合)

## 所得・物質的な 支援を

このような経済的に苦しい保護者が増えている状況に対して、提言では、次のような改善策を示しています。

### ■「食」の提供

学校給食費の負担軽減や「フードバンク」

※1)の活用を図ること。

また、食の提供と共に、子どもの居場所や他世代の交流の場として活用するため、「子ども食堂」※2)の充実を図ること。

### ■副教材に関する費用負担の軽減

学校の授業に必要な様々な副教材について、学校備品の貸与や卒業生が使用しなくなった副教材のリサイクルなど、負担軽減を図るための取組について検討すること。

### ■負担の大きい費用に対する支援

入学時にそろえる必要がある身の回りのもの(制服、ランドセル、鞆、体操服等)に対する負担軽減を図ること。

(※1)「フードバンク」…規格外、商品の入れ替えなどの理由で、品質上は問題ないのに廃棄される食品を引き取り、生活困窮者や福祉施設などへ無償で提供する活動。

(※2)「子ども食堂」…子どもやその親、地域の人に対し、無償または安価で栄養のある食事を提供する活動。

## 求められる

# 給食費の無償化

「提言」では、「給食費の負担軽減」を挙げっていますが、全国的には、給食費の無償化が広がってきています。この近くでは、岐阜県の岐南町で数年前から給食費の無償化が行われ、その結果転入者が増え、人口が減少から増加に転じたそうです。この背景には、若い世代が、安心して子どもを産み育てることができると感じて移り住むようになったことがあるのではないかと考えら

れます。

愛知県においても、保護者の大きな負担となっている給食費の無償化が求められます。なお、尾北では、大口町が給食費の半額補助を行っています。また、岩倉市は義務教育第三子を無償化としています。

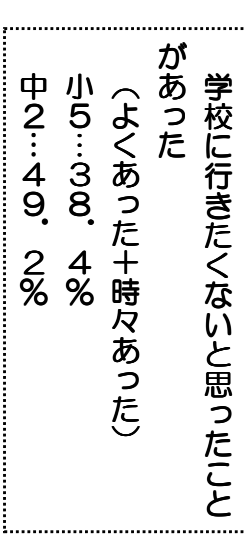
次に、児童・生徒の調査結果を通して、子どもの貧困対策について考えてみます。

## 学校に行きたくない

調査では、「学校に行きたくない」と思ったことがあるか」について、子どもに質問する項目がありました。

以下のように、「あった」「よくあった」「時々あった」の割合が高くなっています。

そして、所得が低いほどその割合が高くなっています。



このことについて、提言では、次のような改善策を示しています。

### ■学校に通える環境づくり

学校におけるカウンセリング機能を高めるため、小・中学校及び高校におけるスクールカウンセラーの充実を図る。

また、家庭における問題や高校中退等に対応するため、・・・スクールソーシャルワーカーの充実を図ること。

### ■楽しい学校生活の実現

子どもが学校生活を楽しく送れるよう、授業やカリキュラムの工夫や課外活動の負担軽減を図った上で、充実させること。

また、不登校になるきっかけとして学習の遅れがあげられることから、学習習熟度の向上に取り組むこと。

### ■子どもの居場所の充実

社会性を身につけ、自己肯定感を育む場としての、身近な地域での居場所づくりや、気軽に参加できるプログラムの充実を図ること。

また、場の提供に加え、子ども同士や大人との人間関係づくりや愛着形成、自己肯定感の形成など、心理的側面でのサポートに取り組むこと。

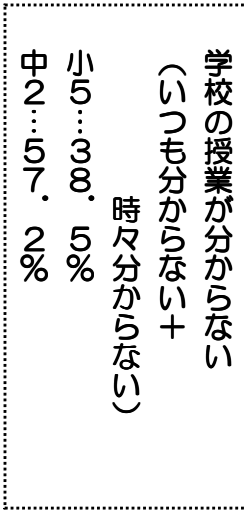
貧困に加えて、いじめ・不登校やネグレクト、あるいは進路問題など子どもたちは様々な悩みを抱えています。

また、愛知県でも子どもたちの自死が後を絶ちません。提言は、貧困対策だけでなく、これらの様々な問題に対するサポート体制の充実を提言するものとなっています。

## 授業が分からない

学校の授業が分からないことがあるか

つも分からない」「+」ときどき分からない」が以下のように高くなっています。これについても、所得が低くなるにつれ、その割合が高くなっています。



そして、このことに対して、提言では、次のような改善策を示しています。

### ■勉強することの意味を伝える・考える機会（授業）の提供

学習への意欲は、学習の習熟度に大きく関係していることから、将来の仕事や生活を描き、勉強する意味や目的を考える機会を与えるため、様々な職業や大人の人と接する機会を設けること。

### ■学校での学習習熟度の向上に関する取り組みの充実

学校において高校・大学への進学や、社会での自立可能な基礎学力を身につけられるよう、指導を充実させること。その基礎的環境づくりとして、義務教育段階における少人数数学級のさらなる充実を図ること。

### ■学ぶことの楽しさを感じることができるときの提供

子どもが身近なテーマを学ぶことで、勉強に興味・関心を持つことができるよう、授業内容と方法を工夫するとともに、地域住民や企業、自治体職員による出張授業の機会の提供・充実を図る。

## 全学年で少人数数学級を

この中で一番大切なことは、少人数数学級の実現です。学級定数が少なくなれば、授業の中で学習が遅れがちな子に目が行き届くようになります。

また、教師に余裕が生まれ、教材研究を大事にして授業を分かりやすくしていくこともできます。

少人数数学級を求める国民的な願いに呼応して、自治体独自で国の定数を下回る少人数数学級を実現しているところが多くあります。

現在、全国47都道府県のうち、21の府県で小1から中3までの全ての学年で少人数数学級を実現しています。

なお、愛知県は、小2・中1のみでトップしています。県内の市町村では独自に予算化を図り、少人数数学級を実現しているところも見られます。尾北では、大山市において小学校の全学年で少人数数学級を実現しています。

本来は国が教職員定数の抜本的改善を図り、すべての学年での少人数数学級を実現するのが筋ですが、その前にあっても愛知県独自の少人数数学級を広げていくことが求められています。

